

○局別審査【市民参画推進局】(23.10.5)

1 自転車専用道路について

(北山議員)

市民参画推進局では第9次神戸市交通安全計画の策定に向けて意見募集を行っているが、「自転車対策の推進」を重要施策として掲げ、自転車走行区間の整備の推進や大規模自転車道の活用が示されている。大規模自転車道とは、私が言っている芦屋から明石までのことを言っているのか。

神戸市における自転車事故は平成14年以降ずっと1,500件を越え、事故全体に占める割合は年々増加しており、そうした中で、自転車のあり方について根本的に考え直すべきである。自転車はこれから移動手段の主流になってくる。そうしなければならない。スポーツや観光を楽しむための重要なツールになっている上CO2削減といった環境対策にも大きく寄与するものである。自転車について、もっと力を入れて取り組んでいくべきである。

欧米では自転車道は車道に線を引くだけでいいという考えである。自転車を活用したまち神戸を実現していただきたいと思っているが、いかがか。

(長谷川部長)

「第9次神戸市交通安全計画」の策定を進めており、近日中に成案をまとめたいと考えている。計画において、「自動車や歩行者と自転車利用者の共存を図ることができるよう、自転車の走行空間の確保を積極的に進める」また自転車の利用者については交通ルールや交通マナーに違反する行動が多いことから、マナーの啓発も行う。さらに、都市部の駅前や繁華街の歩道上など放置自転車が問題となっている場合には、自転車駐車場の整備等放置自転車対策を進める。こととしており、具体的な自転車対策については別途「(仮称)神戸市自転車利用環境総合計画」を策定することとしている。これは建設局が中心となり策定しており、3つの施策を柱としている。1つ目は自転車走行空間の整備、2つ目は駐輪対策の推進、3つ目が自転車利用ルールの周知徹底とマナー向上である。現在、パブリックコメントを実施しているところである。この計画に基づき、今後、緊急性や地域の要望等を踏まえながら、自転車走行空間の整備をしていくと聞いている。

芦屋から明石まで道ができるかということについてだが、この計画には国道2号線、国道48号線、鳴尾御影線や、都心部では京町筋、栄町筋といったものも位置づけられているので、それらが繋がれば、ウォーターフロントなどを含めた東西にのびる自転車走行空間が整備されると思われる。

現在、エコ・健康意識の高まりで、自転車ブームが起こっている。そのことも考えながら、関係局が連携をし、先ほど述べた3つの柱となる施策を総合的に進めていくことにより、安全で快適な自転車利用環境の創出を図っていきたいと考えている。

(北山議員)

以前、本会議で質問をした時も、石井副市長から同様の答弁をいただいたが、「少しずつやるのではなく、一度に作ろう。神戸に行けば素晴らしい自転車道があると世界に知ってもらえる

ようにやろう。」と言うと、検討すると答弁いただいた。他都市がうらやむような自転車道をつくる決意でやっていただきたい。

2 ビエンナーレについて

(北山議員)

1回目、2回目とだんだんよくなってきており、今回の3回目は本当に充実している。本当に素晴らしくなった。しかし、中央区だけが神戸ではない。もっと東西副都心なども含め面を拡げるべきだと思うが、いかがか。

(市民参画推進局長)

今回のメイン会場は4箇所ということで、ご指摘のとおり中央区界限に集中している。

神戸ビエンナーレ組織委員会が実施主体となって、市全域で開催するというのは、経費面等の問題を考えると現実的に厳しいのではないかと考えている。むしろ今後、今まで以上に他の実施主体に期間中の事業実施を呼びかけ、神戸ビエンナーレ協賛事業と位置づけることによって広がりを持たせていくといった方向を目指していきたい。その意味で協賛事業は前回145事業だったものが、今回は227事業に増えている。うち、ビエンナーレの期間中のものは前回95事業に対し、今回は131事業となっており、地区で見ても、全区に渡って実施されている。また、今年も六甲山で開催されている「六甲ミーツ・アート～芸術散歩2011」や「有馬温泉～路地裏アートプロジェクト」なども開催期間を合わせて共同でPRを行うなど連携を図り、それぞれ相互集客が図れるよう努めている。そうしたやり方で裾野を広げていくことも、やり方の1つであると考えている。

(北山議員)

もっともっと面を広げて行っていただきたい。